

## 海士中学校エコ改修事業プロポーザル審査結果について

海士中学校エコ改修事業プロポーザル審査委員会は、海士町長の委嘱を受け、平成19年（2007）11月17日（土）に、公開ヒアリングを実施し、提出のあった8提案について審査を行いました。

その結果、最優秀賞、次点として、下記に示した者を選定しましたので報告します。

平成19年（2007年）11月21日

海士中学校エコ改修事業プロポーザル審査委員会

委員長 熊谷 昌彦

記

最優秀賞	有限会社 アイエムユウ建築設計事務所
次点	株式会社 太陽建設コンサルタント一級建築士事務所
審査員特別賞	櫻設計室一級建築士事務所

海士中学校エコ改修事業プロポーザル審査委員会

委員長	熊谷 昌彦	（米子工業高等専門学校建築学科教授・工学博士）
委員	長野 和雄	（島根大学総合理工学部材料プロセス工学科准教授・工学博士）
委員	寺本 和雄	（建築家）
委員	井ノ上知子	（NPO 法人まつえ・まちづくり塾代表理事）
委員	田口 耕	（海士町教育委員長）
委員	宇野 和福	（海士中学校校長）
委員	宮下 秀昭	（海士中学校 PTA 会長）

### 審査経過の概要

技術提案の審査は平成19（2007）年11月16日（金）の事前協議を経て平成19年（2007）11月17日（土）、隠岐開発総合センターにて、委員7名出席のもとで、9時30分から15時30分までの公開ヒアリング、20分の休憩後、15時50分から18時30分にかけて審査を行いました。

#### (1) 事前協議

隠岐開発総合センター2階小会議室において、平成19年（2007）年11月16日（金）の19時から21時まで、審査委員で、提案内容について意見交換を行うと共に審査基準の確認を行いました。

## (2) 審査経過

平成19（2007）年11月17日、9時30分から15時30分まで、隠岐開発総合センター2階研修室において公開ヒアリング終了後、隠岐開発総合センター2階小会議室において、15時50分から18時30分まで審査を行いました。まず、各審査委員が提案について意見交換した上で、審査員全員の了解を得て、各審査員が8社のうち、より良い提案者とみなされる4社を選定し、投票することになりました。その結果、0票2社、2票1社、4票3社、7票2社となりました。これらの票を得た各社について検討を行いました。まず、0票の2社を検討した結果、独創性はありますが現実性が課題等の理由で除外しました。次いで、2票1社を検討したところ提案は理解できるが有効性が見えにくい等の意見がありました。4票の3社を検討したところ、2社は的確に中学校の課題にこたえようという姿勢がみえ堅実な提案を行っていましたが、独創的提案が欲しいとの意見がありました。1社は環境学習等のソフト面に独創性を示していましたが、建築空間等の技術提案に乏しいとの意見がありました。7票の2社のうち、1社はコンセプトが明快でエコ改修に対する検討が比較的十分になさされていて全体的にまとまりがあるとの意見が多勢を占めました。他の1社は気象データに基づいた的確性のある現実的提案であるとの意見でした。審査員の意見を聞いたうえで、0票2社を除く6社のうち、より良い提案者とみなされる1社を選定し、投票することになりました。その結果、6票1社、1票1社となりました。各審査員が選定した理由を述べて、全員の合意を得て、有限会社 アイエムユウ建築設計事務所を最優秀賞とし、次点を株式会社 太陽建設コンサルタント一級建築士事務所に決定しました。

なお、審査員特別賞は、環境学習を重視した提案を評価し、櫻設計室一級建築士事務所に決定しました。

### 海士中学校エコ改修事業プロポーザル審査総評

海士町は「持続可能な地域社会の形成」を目指し、町全体で環境教育を展開していくこととしています。そのため、教育現場である海士中学校に「エコ改修事業」を導入し、そのシンボリック的存在にするとともに、老朽化に対応した安全性の確保と将来を見据えた環境の整備を行います。また、総合的な学習の時間等を活用しながら、子供達に環境について学ぶ場を与え、地域住民とともに環境意識の醸成を図っていきます。このような趣旨のもと、平成19年度より中学生をはじめ様々な立場の方たちと共に4回の検討会を重ね、そこで出された意見を集約し、提案課題を設定しました。基本テーマは、「海士に生きる『だんだん』の心を育む学び舎～そして持続可能な島へ～」とし、提案課題として「①人と環境にやさしく、快適に学べる学校②地域に開かれ、交流が生まれる学校③海士町の環境学習の場であり、教材となる学校」の3つが掲げられました。

今回のプロポーザルは、参加資格として4回の検討会で環境や教育について学習を経

た方々としている点に特徴があります。また、その検討会に、海士中学校の生徒と先生、建築専門の技術者、地域住民、行政、学識経験者等の方々が共に参加したことで、環境や教育について学び、海士中学校の課題を浮き彫りにし共有化できた点も重要でありました。このような経緯を経て、プロポーザルの公開ヒアリングを開催することができたことは、参加頂いた皆様のご協力あつてのことであると感謝しております。

審査員には、専門家のみでなく町民の代表として海士町教育委員長・海士中学校長・海士中学校PTA会長にご参加頂きました。中学校に深く関わりのある方々であり、今後も中学校の基本設計から運営に至るまでご参加頂けるものと期待しております。

技術提案のあつた8建築設計事務所には、各社それぞれの主張を盛り込んだ文面や図を提示して頂きました。ヒアリングにおいても、20分の制限時間内で、口頭やコンピュータを駆使して説明された提案者の熱意と努力は高く評価したいと思います。

全体的には、環境教育・住民参加・教育の柔軟性等のソフトを中心とした提案、中学校の現実的課題に対応し環境を考慮した技術力を感じさせる提案、独創的提案であるが現実的課題の解決が望まれる提案、海士中学校の将来像と海士町全体との関連の中でエコ改修を考えている提案であつたと考えられます。ひとつひとつが、審査員のみならず聴講頂いた方々にも非常に参考になる提案であつたと思います。

今回のプロポーザルの最優秀賞の提案は「海士中から、エコの輪が広がる、世界へつながる」をコンセプトに、「流れ」「場所の強弱」「参加」の3つの場づくりを重視しています。そのような視点から、環境制御フレームの設置、地中熱・雨水利用、通風換気機能の向上、木材の利用、AMAエコプラザやAMAエコメディアセンターの場の設定、環境問題への意識が高まる仕組み、AMAエコワークショップ等の提案をしています。

基本設計作成までには、中学生・教職員・住民・行政及びアドバイザーをはじめとする専門家等と話し合いを設けることが求められます。そこでは、中学校が環境学習の拠点として、従来とは異なつた海士町ならではのエコスクールとなる設計が求められます。さらに、計画・設計・建設のプロセスにおいて、事務局との綿密な打ち合わせとともに、中学生・教職員・住民等とのワークショップ等による参加のプログラムが求められます。

このように、今回の中学校基本設計作成では、建築以外の諸条件の整備を図ることが、エコスクールを中心とした地域づくりに大きな貢献をすると考えます。

今後、関係者にはこれらの点に十分配慮の上、設計作業や関連の準備業務を進めていただき海士町民の誇る「海士中学校」へと結実することを委員一同期待するものです。

審査委員長 熊谷昌彦

## 各社講評

### A社

「流れをつくる」「場所の強弱をつくる」「参加の場をつくる」の3点を重視し、エコフレームの設置、AMAエコプラザやAMAエコメディアセンターの場の設定、AMAエコワークショップ等の提案は明快です。「生徒の記憶に残る」という点を大事にすると共に現実的な維持管理コスト等の現実的課題についても配慮がなされています。

### B社

海士中学校の将来像の共有やローテク・ローカル技術に着目しています。隠岐の気候に対応して暑さや寒さ対策をしていることや学校の中心に人を集めゾーンングを明確にすることは的確な提案です。環境学習とエコ改修事業との関連性を設計プロセスのなかで具体的に展開していく手法や体制への提案が望まれました。

### C社

教室の間仕切り壁を建具に替え、季節に応じた開閉状況により快適環境を創出する提案です。地域の意向を反映させるためのアンケート調査・ワークショップの開催など、実施方針に具体性があり経験も豊富な点が評価されました。しかし、屋外の木製廻廊の役割や魅力についてももう少し説得力があるとよかったですと思われる。

### D社

地域の要望をうまく取り入れ、海士町の自然や文化を意識しつつ様々な技術を盛り込んだ提案です。設計・工事段階での生徒たちの関わり方の具体性や、暑さ寒さも楽しく捉え五感を活かす方針は魅力的です。しかし、採用した環境技術が、比較的アクティブなシステムが多く、空間利用のイメージがわかりにくい等の意見がありました。

### E社

島全体を環境学習の場として捉えることを前提にしながら、図書館や交流ホールの増築等によって校舎の西側を地域開放ゾーンとする提案です。学校外にも目を向けるという考え方が支持される一方、技術提案の具体性が全体的に弱いという指摘が出されました。

## F社

改修工事のプロセスと環境教育が連動するという点が特徴となっている提案です。環境学習プログラムや環境学習ガイドブックの作成という独創的な提案が高い評価を得る一方、改修計画のイメージが伝わりにくく、エコデッキの規模や耐久性に対して疑問視する意見もありました。

## G社

自然エネルギーの積極的利用により温熱環境を改善し、「長寿命建築」の実現を目指すとともに、学習空間の再編成を行い、将来的には教科教室型への移行も視野に入れる提案です。意欲的な提案との評価の一方、コストに対する不安や、「図書室は増築主体ではなく空部屋の有効利用で対応するのが事業の主旨」などの意見が出されました。

## H社

断熱性の向上、教室の入れ替えによる機能の再編成等とともに、鉄骨造3階建の縦型ダクトが提案されています。この縦型ダクトは、地域の特徴である夏・冬の強風を利用して風量調整を行い、快適な室内環境を創出するというユニークな提案であり注目を集めました。その費用対効果に対して疑問視する意見が多くありました。